

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名 秋 田 県

学校の概要

学校名	能代市立東雲中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	3	2	12	22
生徒数	103	100	107	2	312	

実践研究の概要

1 主題（テーマ）

<p>研究主題：「確かな学力」を身に付け、「自ら学ぶ力」を高める指導 授業改善 学校生活 家庭生活 小・中連携</p> <p>授業改善のためのサブテーマ 平成15年度：学習課題を明示して、確かな学力の向上を図る指導 平成16年度：小集団を活用して、学び合うかわりを深める授業の工夫</p>
--

2 内容与方法

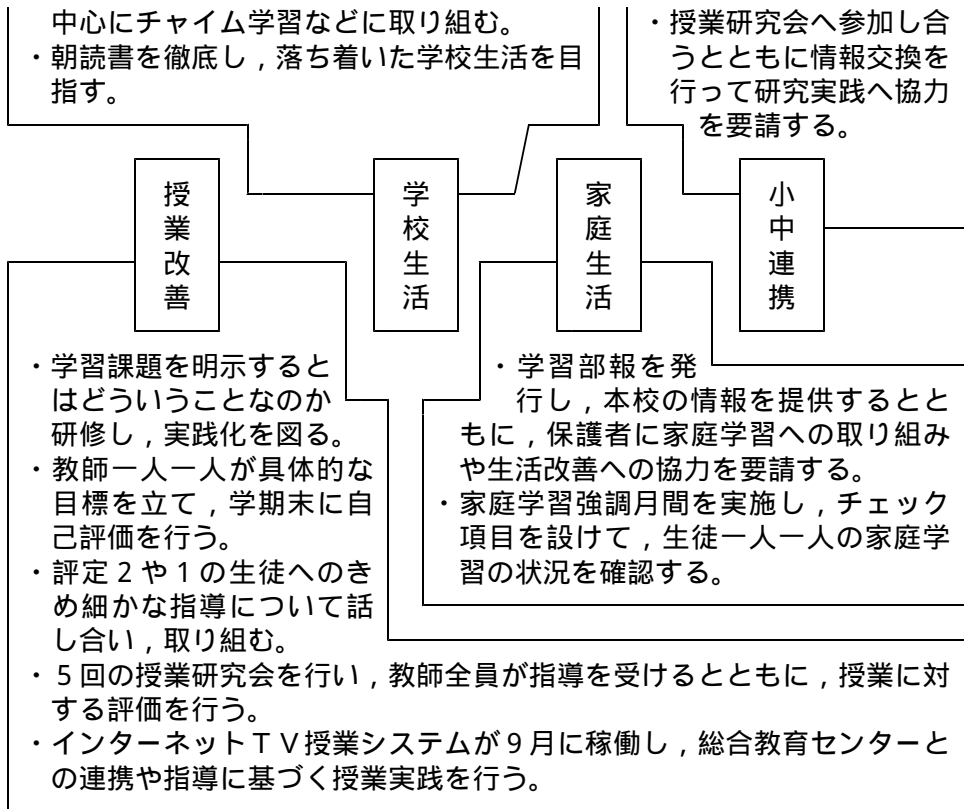
(1) 実施学年・教科

<p>・全学年，全教科，道徳，特別活動及び総合的な学習の時間 学校として，学力を向上させるには，授業改善はもちろん学校生活や家庭生活，小・中連携なども含めた総合的な取り組みが必要だと考えたため。</p>

(2) 年次計画

平成15年度	<p>テーマ</p> <p style="text-align: center;">確かな学力の向上を図る 「実践研究の4つの柱」</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">授業改善</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学校生活</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">家庭生活</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小・中連携</div> </div> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">サブテーマ「学習課題を明示して、確かな学力の向上を図る指導」</p> <p>研究の見通し（仮説） 確かな学力は、『授業改善』『学校生活』『家庭生活』『小・中連携』の4つの実践研究の有機的な結びつきを図った総合的な取り組みによって向上する。</p> <p>研究の内容・方法 「4つの柱」に基づいて、実践すること</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>・学習委員会が「レッツ スティ フォンティア 集会」を実施し、学習アンケートの結果や基礎・基本の大切さなどを発表し合う。</p> <p>・学習コンクールを年5回5教科で行う。</p> <p>・学校生活自己評価カードを作成し、生徒会</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>・学区内4小学校の研究主任や6年生を招待して、学習集会や総合的な学習の時間の発表会を行う。</p> </div> </div>
--------	--

平成
15
年度



授業改善ブテーマ「学習課題を明示して、確かな学力の向上を図る指導」

「学習課題を明示して」とは
生徒が「やれそうだ」という見通しがもて、意欲が持続する授業単元の指導計画の中に「習得すべきこと、探究させたいこと」が明確に示されている授業

国語 社会 数学 理科 音楽 美術 保体 技家 英語

各教科研究主題の立て方を共通化し、全校研究主題と関連付け、体系化していくことを目指した。

「学習課題を明示して」をして、確かな学力の向上を図る指導」
例 数学科：「習熟度別少人数学習」を工夫して、
確かな「問題解決の力」の向上を図る指導

テーマ

研究主題 「確かな学力」を身に付け、「自ら学ぶ力」を高める指導
授業改善 学校生活 家庭生活 小・中連携
授業改善のためのサブテーマ
小集団を活用して、「学び合うかわり」を深める授業の工夫

研究の見通し（仮説）

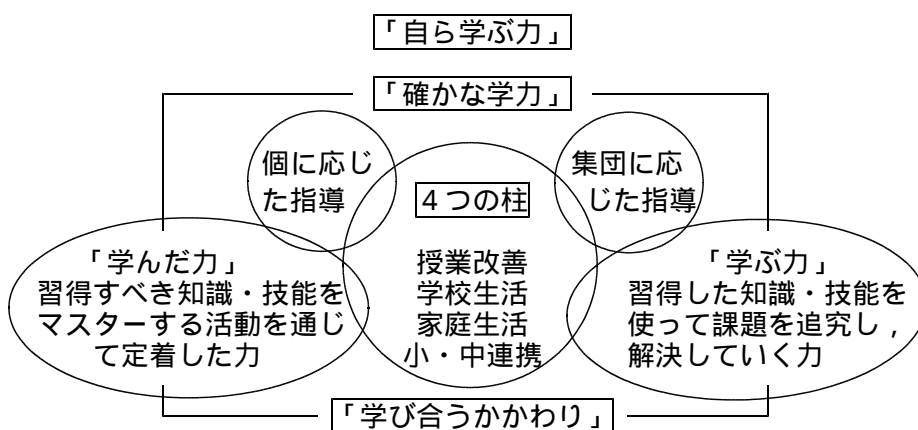
【本校の定義】

「確かな学力」とは、学んだ力（習得すべき知識・技能が定着した力）と学ぶ力（習得した知識・技能を使って課題追究する力）が結び付いた力とする。

「自ら学ぶ力」とは、学校で身に付けた「確かな学力」を使って、変化の激しい社会の中で生涯にわたって自ら学んでいく力とする。

「学び合うかかわり」とは、授業という「学び合い」の中で、生徒一人一人に形成された「学んだ力」と「学ぶ力」が、一層深まったり、確かなものになったりするような「かかわり」とする。

平成16年度



研究の内容・方法

「4つの柱」の有機的な結び付きを図った取り組みの継続と、新しい授業改善サブテーマに基づく実践研究を行っていく。

生徒の実態

明るく素直で、学習や行事に意欲的である。課題にしっかり取り組もうとする生徒が多く、発表会などでもよく練習し表現することができる。反面、他者とのかかわりの中で思考し表現する力が不足している。つまり、与えられた課題を知識として身に付け、理解し発表できても、他と比較して関連付けて意見を組み立てたり、自ら課題を見いだし解決したりできるような思考力等が不足している。

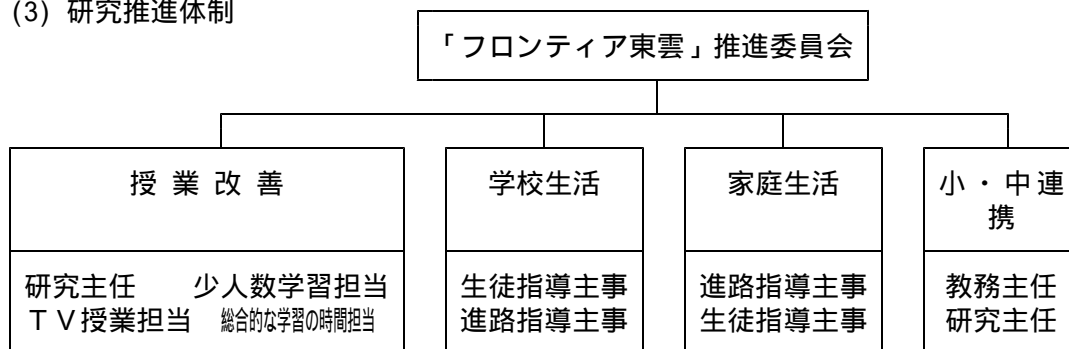
授業改善に関するサブテーマ

小集団を活用して、学び合うかかわりを深める授業の工夫

国語 社会 数学 理科 音楽 美術 保体 技家 英語 道徳 特活 総合

本校生徒に不足している力を高めるには、小集団を活用して、学び合うかかわりが形成されるような授業改善が必要であると考えた。「学び合うかかわり」を深めていけば、そこから、考え表現し合う交流が生まれ、互いに高め合うことができると考える。個と個がかかわり合う場や、考え表現し合う場をつくり出し、「学び合うかかわり」の中で「確かな学力」を身に付けさせたい。そして、「実践研究の4つの柱」に基づいた総合的な取り組みを通じて「自ら学ぶ力」を高めていきたい。

(3) 研究推進体制

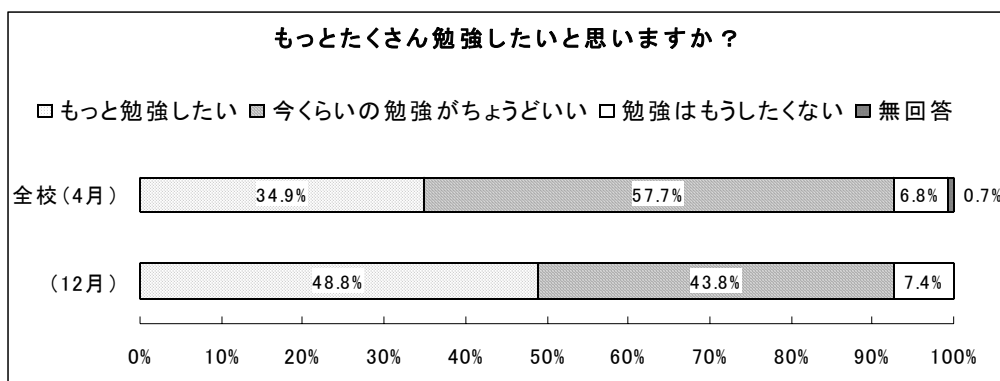


・平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) 学習に対する意欲の向上が見られた。

「学習アンケート」を4月と12月に同じ質問項目で実施し、生徒の意識や実態の変容を調査した。その結果、下のグラフのように、「もっと勉強したい」という生徒が5割近くまで増え、学習(勉強)に対する意欲の向上が見られた。



また、学習状況調査：意欲に関する項目9「わからないことでも自分の力で答えを見つけられるよう、勉強したい」という意識が、すべての学年において県平均を上回っている。

自分の力で勉強したい	1年	2年	3年
たいへん、まあまあ	88% (+11)	79% (+9)	82% (+8)
あまり、ほとんど	12%	17%	15%

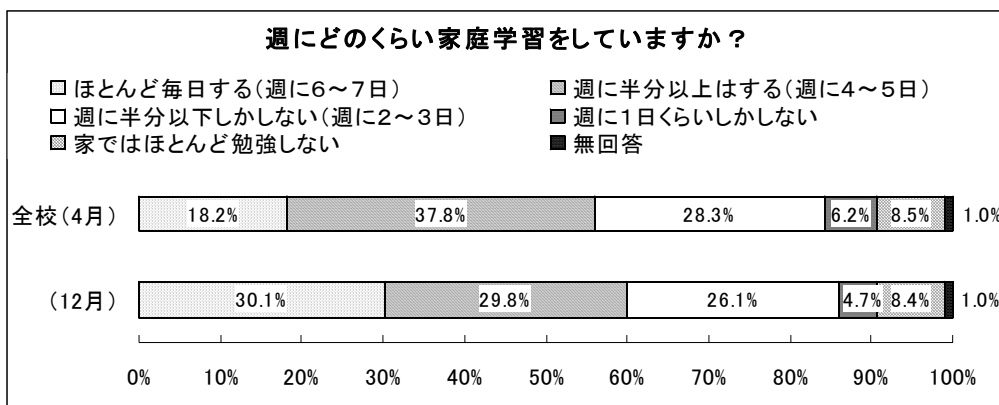
()内は全県平均との比較

これらの結果は、授業改善において、学習課題を明示して何を学習すればよいのかを明確にしてきたこと、学習集会や学習コンクールを適宜実施して、学校生活を活性化させたことなどの成果であると思われる。

(2) 家庭学習の増加と定着が見られた。

同じく本校の「学習アンケート」結果から、「ほとんど毎日家庭学習をする」生徒が18.2%から30.1%に増え、6割の生徒が「週に半分以上」家庭学習を行っている。また、家庭学習の時間も3時間以上の生徒が0.7%から5.4%へ、2～3時間の生徒が11.1%から18.1%へ、1～2時間の生徒が37.8%から43.8%

へそれぞれ増えていることが分かった。



これらの結果には、学習意欲の向上とともに、家庭学習の大切さが意識されたこと、適切な課題を与え、一人一人の見取りをきめ細かに行ってきたことなどの成果によると思われる。

(3) 学習状況調査によると、特に2年生において通過率の向上が見られた。

2年生 学習状況調査 前年度と今年度の比較

	国語	社会	数学	理科	英語	合計
H14年度1年生	72.4 (+0.6)	59.9 (+4.2)	69.6 (+3.1)	77.5 (+1.9)	/	69.9 (+2.2)
H15年度2年生	77.2 (+7.8)	54.1 (+3.1)	61.6 (+10.6)	65.6 (+8.1)	68.7 (+6.3)	65.4 (+7.1)

この結果から特に数学と理科の伸びが著しいことが分かる。少人数学習によるきめ細かな指導を中心とした、継続的な個に応じた指導の成果が表れたと考える。

また、1年生においても、1月に実施された能代市山本郡一斉数学テストや英語テストの結果において、大きな成果が見られた。

- (4) 「学習コンクール」を、年5回、5教科で実施した結果、学級経営における学力向上の取り組みが行われ、学級集団としての学習意欲が向上した。
- (5) インターネットTV授業システムが9月に開通し、総合教育センターと連携した授業や指導が行われた。このシステムは遠隔地とのリアルタイムな通信が可能であり、生徒の学習意欲の向上や教師の指導法の改善につながっている。
- (6) 徹底した朝読書の時間の確保と実践によって、学校生活に落ち着きが見られ、併せて生徒の集中力が向上している。
- (7) 学区内の4小学校の6年生を総合的な学習の時間の発表会に招待したり、入学説明会に保護者と新入生予定者を招待して授業参観を行ったりするなど、小・中連携の機会を大切にしている。また、小学生を前にしたこれらの発表の場が中学生としての自覚と誇りを高め、本校生徒の発表力の向上にも結びついている。

2 今後の課題

(1) 授業改善

学習状況調査によると、3年生の学習状況に伸びが見られなかった。この原因として、楽しい学習活動を展開することに腐心して、基礎・基本の定着がおろそかになっている面があったこと、また逆に、基礎・基本の定着に固執しすぎたために、学習への興味・関心を失わせてしまうような学習の展開や活動になっている面があったことなどがあげられる。今後は、定着のプロセスと探究(課題追究)のプロセスを統合し、楽しく分かる授業をいかに展開していくか考えていくとともに、「小集団を活用して、学び合うかわりを深める授業の工夫」の実践研究に取り組んでいく必要がある。また、併せて、インターネットTV授業システムを学力向上にどのように結び付けていくかを考え実践することが必要である。

(2) 学校生活

今年度、生徒会の学習委員会と生活委員会がタイアップして、学校生活を改善する活動を展開した。次年度も、あいさつやチャイム学習、昼休みの過ごし方、宿題の提出など、基本的な生活習慣のより一層の改善に取り組み、学力向上の原動力になるような学校生活をつくっていく総合的な取り組みが必要である。

(3) 家庭生活

毎朝朝食を摂る、決まった時間に決まった場所で家庭学習を行う、テレビ視聴の在り方を見直すなど、家庭生活の全般的な見直しを、学習部報やPTA活動を通じて今年度以上に啓発していくことが必要である。

(4) 小・中連携

学区内4小学校との連携を一層強め、共同研究体制を築いていくとともに、児童生徒間の交流はもちろん、教職員の授業交流の他にも、定期的な学級経営や教科経営に関する情報交換や交流研究会を企画・運営していく必要がある。

学力把握のための学校の取組について

学習状況調査の結果を1問ごとに分析し、対策を考えた。
CRT検査の結果を1問ごとに分析し、対策を考えた。
本校独自の「学習に関するアンケート」を4月と12月に実施し、比較した。
「学習コンクール」を、年5回、5教科で実施し、結果に基づいた指導を行った。

フロンティアスクールとしての成果の普及について 平成15年度の授業研究会

第1回授業研究会	6月3日(火)	国語 社会 理科 保健体育 総合
第2回授業研究会	10月8日(水)	数学 理科 音楽 美術 技術・家庭 英語
第3回授業研究会	11月4日(火)	道徳 学活 特殊 特殊
第4回授業研究会	11月7日(金)	数学 英語
第5回授業研究会	2月4日(水)	特殊

主に学区内4小学校や能代山本の6高等学校へ、授業参観と研究会への参加を要請し、小・中連携とともに、中・高連携に基づいた授業研究会を行った。
平成15年度「研究のあゆみ」を発行し、近隣小・中学校へ配布した。
平成16年度は自主公開研究会を11月18日(木)に予定している。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下	4～6学級		
	7～9学級	10～12学級		
	13～15学級	16学級以上		
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
	その他			
【研究教科】	国語	社会	数学	理科
	外国語	音楽	美術	技術・家庭
	保健体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	